

第
27
回

International Ukiyo-e Society 27th Fall Conference

国際浮世絵学会 秋 季 大 会



The
27th

International Ukiyo-e Society Fall Conference

International Ukiyo-e Society

Saturday, November 26, 2022
at Hosei University, online

2022年11月26日(土)

会 場

法政大学 市ヶ谷キャンパス

富士見ゲート G401教室 (東京都千代田区富士見 2-17-1)

および Zoom によるオンライン

主催／国際浮世絵学会 International Ukiyo-e Society

第27回国際浮世絵学会秋季大会によせて

国際浮世絵学会会長・大和文華館
President of IUS. Museum Yamato Bunkakan

浅野 秀剛
Shūgō ASANO



新型コロナウイルスによるパンデミックも峠を越し、ようやく終焉の兆しが見えてきました。この第27回の秋季大会が開催される頃には、さらに改善し、以前と変わらない状態に戻っていることを心から念じています。

今年4月、2年ぶりに海外に出張、春のパリに1週間滞在しました。パリ市民は久方ぶりの自由な春を謳歌し楽しんでいるように見えてましたが、地下鉄の車内ではマスクの着用が義務付けられていました。「目出度さもちう位也おらが春」といったところでしょうか。夏にはアメリカに出張、いくつか美術館にも行きました。以前とあまり変わらないようにも見えてましたが、実際はパンデミックが深刻な影を落としていました。日本に戻る前にはPCR検査が義務付けられ、陽性になったらどうしよう、という不安を拭えませんでした。

1日だけですが、3年ぶりに実開催となった今年の秋季大会は、3本の研究発表と、講演、シンポジウムを予定しています。講演は、オクスフォードアシュモリアン美術館のクレア・ポラード氏による「オクスフォードでみる東京—アシュモリアン美術館における「東京 アートと写真」展で都市を縮約する」、シンポジウムは、近年相次いで開催されている「新版画」をテーマにしたものです。また、臨時総会では会則改定案が示されることになっています。

久方ぶりの実開催に一人でも多くの方にご参加いただき、皆様の変わらぬ笑顔を拝見できることを楽しみにしています。

最後になりましたが、本大会の開催をお引き受け下さった法政大学、準備の主体となった国際委員会をはじめ、ご尽力下さったすべての方々に感謝申し上げ、ご挨拶といたします。

第27回国際浮世絵学会秋季大会によせて

国際浮世絵学会理事長・国立歴史民俗博物館
Chair of the Board of IUS. National Museum of Japanese History

大久保 純一
Jun'ichi ŌKUBO



私が理事長に就任するのとほぼ時を同じくして新型コロナウイルスのパンデミックとなり、春と秋の大会は中止もしくはリモート開催とせざるをえませんでしたので、今回久しぶりの対面での大会開催となったことは喜ばしい限りです。これまでのリモート開催の経験も踏まえ、対面開催だけのころにはなかなか参加できなかった遠隔地の会員のため、リモートも残したハイブリッドでの実施です。準備にあたられた国際委員会の皆さまのご苦勞は並大抵ではなかったことと思います。この場をお借りして心から感謝申し上げたいと思います。

この2年半、私のもとに、多くの会員の方々から、対面実施できないことの不便を嘆く声が寄せられてきました。リモート開催という新しい時代の情報技術になかなかついていきにくい（私も例外ではないのですが）ご高齢の会員からはご苦情をいただき、また、これから業界の先輩方と交流し、知識の吸収や人脈を広げていくことが必要な若手の研究者の方々からの声には切実なものがありました。

本来、研究は孤独なものだと思います。ひとり黙々と資料や文献に向かい、仮説を立て、それを検証し、論文にまとめるといった作業には忍耐を必要とします。ただ、それだけに自身の進めている手法や研究の方向性が正しいのかどうか、ときには同業知人と意見交換することで確かめることも必要になりますし、交流の中で新たな研究の方向性を見出すことも可能となります。アメリカの研究機関で、毎日3時になると全研究員がお茶に集まって談話するということを義務付けているところがあるのもそのためです。

本学会は美術史、国文学、演劇史、歴史学、浮世絵商、収集家や愛好家とさまざまな分野・業界の方々からなっているので、なおさら対面での交流は多彩な知見や予想もしない気づきをもたらす可能性があります。研究発表やシンポジウムでの討論はもちろんのこと、合間を縫っての懇談の機会が実りあるものとなることを願っております。もちろん、このごあいさつ原稿を書いた以後に急激に感染状況が悪化して、急遽中止あるいはリモート開催だけに戻るような事態にならないことも。

国際浮世絵学会

INTERNATIONAL UKIYO-E SOCIETY

第27回 国際浮世絵学会 秋季大会

日 時：2022年11月26日（土）

会 場：法政大学 市ヶ谷キャンパス 富士見ゲートG401教室（東京都千代田区富士見2-17-1）

およびZoomによるオンライン

※大会の参加方法や参加費については、本冊子の【秋季大会 参加方法】をご覧ください。

タイムテーブル

総合司会：加藤 陽介（国際委員会委員長・練馬区立美術館）

10：00 理事会（対面開催のみ）

10：30 開会の辞 浅野 秀剛（国際浮世絵学会会長・大和文華館）

理事長挨拶 大久保 純一（国際浮世絵学会理事長・国立歴史民俗博物館）

10：45～11：25 研究発表

司会：日野原 健司（太田記念美術館）

『浮世絵に見る王子・飛鳥山の名所化』

佐藤 知乃（亜細亜大学）

11：25～12：05 研究発表

『喜斎立祥（二代歌川広重）「東京名所三十六花撰」に関する一考察』

形井 杏奈（藤沢市藤澤浮世絵館）

12：05～12：45 研究発表

『ポーランド・ポズナン国立博物館の浮世絵コレクション ―その収集の歴史と、寄贈者について―』

マグダレナ・ピョトロフスカ（アダム・ミツキエヴィチ大学／慶應義塾大学）

12：45 休憩

13：45 臨時総会（オンラインあり）

14：30～15：20 特別講演

司会：岡崎 礼奈（東洋文庫）

『オクスフォードでみる東京 アシュモリアン美術館における「東京 アートと写真」展で都市を縮約する』

クレア・ポラード（オクスフォード大学アシュモリアン美術館）

15：30～ シンポジウム『渡邊庄三郎と新版画』

司会：長井 裕子（那珂川町馬頭広重美術館）

発表：クリス・ウレンベック（フリーランス・キュレーター・ホテイ日本美術店店主）

『ヨーロッパにおける新版画 現在と過去』※オンライン発表

月本 寿彦（茅ヶ崎市美術館）『企画展「THE 新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦」について』

小池 満紀子（中外産業株式会社原安三郎コレクション）『小原祥邨／古邨にとっての新版画』

16：50～ パネルディスカッション

司会：長井 裕子

パネリスト：月本 寿彦、小池 満紀子、渡邊 章一郎（渡邊木版美術画舗）

18：00 閉会の辞 加藤 陽介

表紙画像（すべて渡邊木版美術画舗所蔵）

川瀬巴水「塩原おかね路」

橋口五葉「浴場の女」

山村耕花「二世市川段四郎の鉄心斎」

小原祥邨「柘榴に鸚鵡」

International Ukiyo-e Society 27th Fall Conference

Saturday, November 26, 2022, at Hosei University, online

General Chair:

Yōsuke Katō (Chair of the International Committee, IUS. Nerima Art Museum)

10:00 Meeting of the Board

10:30 Opening Addresses

Shūgō Asano (President of IUS. Museum Yamato Bunkakan)

Jun'ichi Ōkubo (Chair of the Board of IUS. National Museum of Japanese History)

Presentations Moderator: **Kenji Hinohara** (Ōta Memorial Museum of Art)

10:45~11:25

Chino Satō (Asia University)

“Representations of Ōji and Asukayama in Ukiyo-e and Their Transformation into Notable Sites in Eighteenth-century Edo”

11:25~12:05

Anna Katai (Fujisawa Ukiyo-e Museum)

“Study of *Thirty-six Selected Flowers at Famous Places in Tokyo* by Kisai Risshō (Utagawa Hiroshige II)”

12:05~12:45

Magdalena Piotrowska (Adam Mickiewicz University / Keio University)

“Ukiyo-e in the National Museum Poznań, Poland: History of Acquisitions and Its Collectors”

12:45 Lunch Break

13:45 General Meeting *online

14:30~15:20 Special Lecture

Clare Pollard (Ashmolean Museum, University of Oxford)

“Tokyo in Oxford: Encapsulating the City in the Exhibition ‘TOKYO – Art & Photography’ at the Ashmolean Museum”

Moderator: **Rena Okazaki** (Toyo Bunko)

15:30~ Symposium “Shōzaburō Watanabe and Shin Hanga”

Moderator: **Hiroko Nagai** (Nakagawa-machi Bato Hiroshige Museum of Art)

Presenter: **Chris Uhlenbeck** (Freelance curator. Hotei Japanese Prints) *online

Toshihiko Tsukimoto (Chigasaki City Museum of Art)

Makiko Koike (Chugai-Sangyo Co., Ltd.)

16:50~ Discussion

Moderator: **Hiroko Nagai**

Panels: **Tsukimoto, Koike, Shōichirō Watanabe** (S. Watanabe Color Print Co.,)

18:00 Closing Remarks

Yōsuke Katō

第27回 国際浮世絵学会 秋季大会 参加方法

第27回秋季大会は、法政大学市ヶ谷キャンパスを会場として対面で開催をいたします。あわせて、来場が難しい方のためにZoomを使ったオンラインでも配信いたします。市ヶ谷キャンパスへは一般の方も参加が可能です。オンラインでの参加は国際浮世絵学会会員限定とさせていただきます。パソコンやスマートフォン等のインターネット環境をあらかじめご準備ください。

■会場案内

法政大学 市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート G401教室

- ・市ヶ谷駅（JR総武線、地下鉄有楽町線・南北線・都営新宿線）から徒歩約10分
- ・飯田橋駅（JR総武線、地下鉄有楽町線・南北線・東西線・都営大江戸線）から徒歩約10分



■会場参加方法

当日は本冊子と会員証をご持参のうえ、マスクをご着用ください。また、体調のすぐれない方のご参加はご遠慮ください。

当日資料代は会員無料、一般1000円、学生500円です。

■オンライン参加について

一昨年、昨年は事前に参加申し込みを行った方のみアクセスできる設定でしたが、今回は利便性を考慮し事前申し込みを不要としました。当日、下記のミーティングID、パスコードを入力しご参加ください。メールアドレスを登録されている会員には、事前にURLを送信しますので直接アクセスください。

なお、オンライン参加の場合、発表資料は当日、Zoomのチャット欄での配信となります。メールでの事前送付はありませんのでご注意ください。

■オンライン参加の手順

- ・Zoomを起動し「ミーティングに参加」をクリック。お名前はフルネームで表記してください。
- ・ミーティングIDに下記の数字を入れ、「参加」をクリック。
ミーティングID：897 3436 6766
- ・パスコードに下記の数字を入れてください。
パスコード：254878
- ・11月26日（土）10：20よりZoomにアクセスが可能です。

注意）オンラインでの参加は会員に限定していますので、上記のID、パスコードは会員以外には決してお知らせしないようお願いします。

浮世絵に見る王子・飛鳥山の名所化

Representations of Ōji and Asukayama in Ukiyo-e and Their Transformation into Notable Sites in Eighteenth-century Edo

亜細亜大学 佐藤 知乃
Asia University Chino SATŌ

8代将軍徳川吉宗（1684-1751、在任1716-45）による享保の改革には、過密化、スプロール化した江戸という都市への対応策も含まれた。なかでも、江戸近郊に一種のグリーンベルトが計画的に配置されたことは特記されるべきで、これによって、江戸の東西南北の周縁にあたる隅田川堤、中野、高輪御殿山、そして飛鳥山に名所空間が出現することになった。

王子・飛鳥山の由来は、元享年中（1321-24）に王子権現を紀州熊野より勧請したことにちなむものと伝える。ここにその前身が紀州家5代藩主である吉宗との縁を見出し、王子・飛鳥山を紀州熊野ともつながる新吉野と見なして、享保5、6年に桜が植樹された。これらの桜が大きく成長した元文2年、老若男女・貴賤を問わず訪れることのできる行楽地として開放され、吉宗の威徳を顕彰する石碑が飛鳥山に建立された。

そのほぼ全容を春潮の「[飛鳥山の花見]」三枚続に見ることができる。王子稲荷信仰の流行ともあいまって、王子・飛鳥山は新名所として急成長し、浮世絵の江戸名所の画題の一つとなる。それは初代広重の『江戸近郊八景之内』『飛鳥山暮雪』等を経て、周延の「飛鳥山遊覧之図」三枚続にも及ぶだろう。

また参詣の手土産として、かんたんな仕掛けのある〈絵人形〉が盛んになり、絵のなかに描き込まれるようになる。北斎の摺物「[王子稲荷参拝]」が早い例で、国貞、国芳、広重、周延らにも例がある。〈絵人形〉にはいくつもの種類があるが、〈暫狐〉の例が複数認められる。むろん市川団十郎の舞台姿に取材したもので、中ごろに王子稲荷の申し子として名をあげた女役者二代目瀬川菊之丞（1741-73）があったように、この地と劇界、あるいは遊楽と芸能との浅からぬ交渉がうかがわれる。

吉宗当初の政治的意図をふまえつつ、王子・飛鳥山の名所化の様相を浮世絵から考察したい。

喜斎立祥（二代歌川広重）「東京名所三十六花撰」に関する一考察

Study of *Thirty-six Selected Flowers at Famous Places in Tokyo* by Kisai Risshō (Utagawa Hiroshige II)

藤沢市藤澤浮世絵館 形井 杏奈
Fujisawa Ukiyo-e Museum Anna KATAI

本発表は、二代歌川広重（1826-69）が喜斎立祥という画号を用いていた時期に制作した揃物「東京名所三十六花撰」に、初代歌川広重（1797-1858）の学習が見られること、同時にその様式の継承にとどまらず制作にあたった可能性について考察したものである。

二代広重は初代広重に入門し作画活動を開始したとされている弘化年間（1844-48）頃から明治2年（1869）に没するまで、生涯に渡って名所絵をよく手掛けた。その二代広重の画業の中でも「東京名所三十六花撰」は少々異質の存在である。本作は豎型の大判錦絵で、慶応2年（1866）に蔦屋吉蔵を版元として制作された。その名の通り東京の各名所を描くものであるが、実際に画面を多く占めるのは近景に大きく配された花の絵であり、名所絵というよりも花鳥画としての性質を感じられる揃物である。なお近景に大きく物を配する方法は近像型構図と呼ばれており、初代広重が安政3年から5年（1856-58）に制作した「名所江戸百景」が代表的な作例となっている。「東京名所三十六花撰」にも「名所江戸百景」とほとんど同じ構図をとった図があり、その影響は明らかといえる。更に本作には嘉永年間（1848-1854）に刊行された初代広重の『絵本手引草』を参考にした図も散見される。なお、花鳥の図の枠を黄色く囲み長方形の題箋を画面上部に置く手法は同版元にて安政6年に嵩岳堂が制作した「生うつし四十八鷹」の図に先例が見られる。

以上から「東京名所三十六花撰」が主に初代広重の構図や図様の借用のみで成立したかのようと思われるが、近景に描かれる花や葉の描き込みは初代広重が殆ど行わなかった表現である。この表現について同時代に制作された他の絵師による作品にも触れながら、初代広重の画風を忠実に守っていたことが特徴とされている二代広重の画業について検討したい。

ポーランド・ポズナン国立博物館の浮世絵コレクション —その収集の歴史と、寄贈者について—

Ukiyo-e in the National Museum Poznań, Poland: History of Acquisitions and Its Collectors

アダム・ミツキエヴィチ大学／慶應義塾大学
Adam Mickiewicz University / Keio University

マグダレナ・ピョトロフスカ
Magdalena PIOTROWSKA

ポーランド、ヴィエルコポルスカ県の県都・ポズナン（Poznań）にある国立博物館（National Museum Poznań）には、30万件にのぼる収集品のうち、200件以上の浮世絵作品が版画室に所蔵される。件数からみればさほど大きな収蔵量では無いものの、国内では3番目に大きな浮世絵コレクションとして検討すべき事柄がいくつか含まれている。本発表では、同館の収集史、および寄贈者についての紹介と、小考とを試みる。

今回は館の収集史のうち、1919年以前と、それ以降1945年以前までの、二つの時期に着目したい。まず、ポズナンでは1901年から日本関連の資料や美術品の収集が確認されるが、1905年にフリードリヒ3世記念博物館（Kaiser Friedrich Museum Posen）と名称変更した博物館へ、やや規模の大きな日本・東洋美術のコレクションが寄贈された。ペーテル基金（Peatel Stiftung）に基づくこのコレクションには歌川広重や溪斎英泉が含まれ、資料によればそれらの元来のコレクターはアドルフ・フィッシャー（Adolf Fisher 1856-1914）、現在のドイツ・ケルン東洋美術館の創立者として知られる人物であることがわかる。

つぎに、第二次収集期の1920年には、新たにヴィエルコポルスキエ博物館へと改名した博物館へ、レオン・ヴィチュウコフスキ（Leon Wyczółkowski 1852-1936）からの寄贈がなされた。19世紀末から20世紀初めのポーランドの著名な画家であり、版画制作者、そして美術大学教授であったヴィチュウコフスキは、ポーランドにおけるジャポニズムの第一人者である。彼が日本美術に対して強い関心を抱く人物であった事実は、たとえば、合計6万5千件にのぼる膨大な日本の美術品（現クラクフ国立博物館蔵）のコレクター、フェリクス・ヤシェンスキ（Feliks Jasieński 1861-1929）と親しい関係にあっただけでなく、自らも積極的にコレクションを形成したこと、さらに、それらを通じて自作に反映されたさまざまな造形表現上の特色からも、明らかであると考えられる。

ポズナンの浮世絵コレクションは、1945年以降わずか数回しか展示されたことがなく、コレクションの複雑な収集史も顧みられていない。したがって本発表を、知られざるポーランドの浮世絵コレクションを周知する機会としたい、とも考えている。

オクスフォードでみる東京

アシュモリアン美術館における「東京 アートと写真」展で都市を縮約する

オクスフォード大学アシュモリアン美術館
クレア・ポラード



本講演では、最近の展示「東京 アートと写真」を紹介し、共同して企画したレナ・フリッチとともに、イギリスの観覧者に向けて、3つの展示室という制約のもとで、日本の動的な首都を縮約してみせる試みにおいてどのような課題に直面したかを論じたいと思います。2021年に開催されたこの展覧会では、1600年代初頭に徳川幕府の拠点として始まってより、広範にわたる近代的な大都市にして主要なアートを中心地としての今日に至るまで、東京が400年以上にわたって生みだしてきたさまざまな活気あふれる作品を選んでこの都市を紹介しました。

屏風からポップ・アート、写真、あらたに現代のアーティストに依頼したインスタレーションに至るまでのその作品選択と展示法について、とりわけ、江戸-東京が浮世絵から現代版画まで、木版印刷でどのように描出されたかに焦点をあてて検討します。

また、展覧会の企画にあたって、伝統的な歴史的技法よりも特定テーマからのアプローチをとるという決断をすることによって、展示を通して古い作品と新しい作品を結びつけ、都市とその美術における変化と継続性の双方を感じさせ得ることについて考察したいと思います。

〈クレア・ポラード 略歴〉

オクスフォード大学アシュモリアン美術館日本美術担当学芸員。おもに明治時代の美術を研究している。主著に『*Master Potter of Meiji Japan: Makuzu Kōzan (1842-1916) and his Workshop* (明治日本の名陶工 真葛香山とその工房)』(オクスフォード大学出版局、2003)、『*Threads of Silk and Gold: Ornamental Textiles from Meiji Japan* (絹と金の糸 明治日本の装飾的織物)』(アシュモリアン美術館、2012)がある。近年は、同美術館所蔵の浮世絵版木の展覧会と図録編集を連続して手がけ、『*Hiroshige - Landscape Cityscape* (広重 田園と都市の風景)』(アシュモリアン美術館、2014)、『*Plum Blossom & Green Willow: Japanese Surimono Poetry Prints* (桃花と青柳 摺物という詩歌版画)』(アシュモリアン美術館、2018)を出している。2021年には、同館でレナ・フリッチと共同で『*Tokyo - Art & Photography* (東京 アートと写真)』展を実施している。アシュモリアン美術館着任以前には、ダブリンのチェスター・ビーティ図書館、シドニーのニューサウスウェールズ州立美術館に奉職。オクスフォード大学で博士号を取得し、京都市立芸術大学でも学んでいる。

Tokyo in Oxford: Encapsulating the City in the Exhibition 'TOKYO - Art & Photography' at the Ashmolean Museum

Ashmolean Museum, University of Oxford **Clare POLLARD**

Clare Pollard, Curator of Japanese Art at the Ashmolean Museum, Oxford University, will introduce the recent Ashmolean exhibition 'TOKYO - Art & Photography' and discuss the challenges she and co-curator Lena Fritsch faced in attempting to encapsulate Japan's dynamic capital city for British audiences within the confines of three exhibition galleries. The exhibition, held in 2021, introduced Tokyo through a selection of the varied and vibrant arts it has generated over four hundred years, from its beginnings as the headquarters of the Tokugawa shoguns in the early 1600s to the sprawling modern metropolis and leading artistic centre it is today.

Clare will discuss the selection and display of art works, which ranged from folding screens to pop art, photography and new commissions by contemporary artists, focusing in particular on ways in which Edo/Tokyo has been portrayed in woodblock prints, from *ukiyo-e* to contemporary prints. And she will reflect on the curatorial decision to take a thematic approach rather than a conventional historical one, which made it possible to juxtapose old and new works throughout the exhibition and to give a sense of both change and continuity within the city and its art.

〈Lecturer's Biography〉

Clare Pollard is Curator of Japanese Art at the Ashmolean Museum, Oxford. Her research has focused mainly on the arts of the Meiji era, and her publications include *Master Potter of Meiji Japan: Makuzu Kōzan (1842–1916) and his Workshop* (Oxford University Press, 2003) and *Threads of Silk and Gold: Ornamental Textiles from Meiji Japan* (Ashmolean, 2012). In recent years she has developed a series of exhibitions and catalogues of the Ashmolean's Japanese print collections, including *Hiroshige – Landscape Cityscape* (Ashmolean, 2014) and *Plum Blossom & Green Willow: Japanese Surimono Poetry Prints* (Ashmolean, 2018). In 2021 she co-curated the Ashmolean exhibition *Tokyo – Art & Photography* with Lena Fritsch. Before joining the Ashmolean, Clare worked at the Chester Beatty Library, Dublin and the Art Gallery of New South Wales, Sydney. She holds a doctorate from Oxford University and also studied at the Kyoto City University of the Arts.



渡邊庄三郎と新版画

Shōzaburō Watanabe and Shin Hanga

国際委員・那珂川町馬頭広重美術館

International Committee of IUS. Nakagawa-machi Bato Hiroshige Museum of Art

長井 裕子(司会)

Hiroko NAGAI (Moderator)

近年、川瀬巴水や橋口五葉、吉田博、伊東深水、小原祥邨／古邨、笠松紫浪などの展覧会が全国各地で頻繁に行われ、大変な人気を呼んでいる。彼らは、浮世絵の近代化や復興を目指して大正初期より始まった“新版画”というジャンルに属する作家たちである。海外でもその蒐集や展覧会は盛んに行われ、今や新版画は、ブームともいえる勢いを見せている。

本年は、その新版画の生みの親である版元・渡邊庄三郎の没後 60 年にあたる。そこで、第 27 回国際浮世絵学会秋季大会シンポジウムでは、渡邊庄三郎に焦点を当て、改めて庄三郎の業績を振り返るとともに、その制作の意図を探っていきたいと思う。

シンポジウムでは、最初に、海外における新版画の受容についてクリス・ウレンベック氏にお話しいただく。ウレンベック氏は浮世絵ディーラーとして長年にわたり新版画の流通に関わってこられた。その一方、新版画の研究を行い、現在、ヨーロッパ各地で行われている新版画の巡回展を手がけておられる。今回の氏の発表では、ヨーロッパの人々の新版画の展覧会に対する反応やヨーロッパとアメリカにおける新版画の蒐集の違いなど、日本ではなかなか知り得ない情報が伺えるものと期待している。また、これを踏まえ、海外での現在の状況が、庄三郎や同時代の版元たちの動向や戦略とどのように関係しているのか考察できたらと思う。

月本寿彦氏と小池満紀子氏のお二人の研究者には、最近手がけられた新版画の展覧会や、近年調査された庄三郎の日記により深められた研究の成果についてご発表いただく。ディスカッションには月本氏と小池氏に加え、庄三郎の孫であり、「渡邊木版美術画舗」の三代目として現在も浮世絵商・版元として活躍されている渡邊章一郎氏に参加していただき、新版画誕生の経緯や庄三郎の意図について掘り下げていく。新しい資料の解説や近親者による口伝や証言に基づいた議論により、当時の日本の版画を取り巻く状況や庄三郎の版元としての活動、さらに、庄三郎と作家たちとの関わりなどが詳らかになることだろう。さまざまな角度からの議論を通して庄三郎の新版画にかける想いを探り、新版画についての理解をより深めていければと考えている。

ヨーロッパにおける新版画 現在と過去

Shin Hanga in Europe: Now and in the Past

フリーランス・キュレーター・ホテイ日本美術店店主
Freelance curator. Hotei Japanese Prints

クリス・ウレンベック
Chris UHLENBECK

米国とは対照的に、ヨーロッパでは両世界大戦の戦間期にはいまだ新版画が拡がりを見せることはなかった。ヨーロッパでは伝統的な浮世絵の方におもに関心が寄せられていたのである。これが1990年代になって変化する。92年にロバート・O・ムラー・コレクションの巡回展がオランダのライデンより始まり、あわせてはじめての新版画に関する本格的なカラー版書籍『The New Wave (新しい波)』が刊行された。この展示はローザンヌとパリを回り、多大な影響力をもった。それまで新版画は、大英博物館で小さな展示が行われたただけだった。アメリカの市場では1920年代初頭以来、ニューヨークでのオークションを通じて多くの新版画が売買されていたのに対して、ヨーロッパではごく限られた量の新版画が広まるにとどまっていた。それが90年代になって、コレクターが関心をもち展覧会も開かれるようになって、急激に変化したのである。

現在、オランダの2人のコレクターおよび渡邊木版美術画舗の蔵品を中心にした最大の新版画展がヨーロッパを巡回している。そこで展示するなかから選りすぐりの作品、および私自身と当社のスタッフが執筆・出版した4言語による図録を紹介する。

In contrast to the United States, Shin Hanga had not spread to Europe during the period between the first and second World War. Europe primarily focused on traditional Ukiyo-e. This changed from the 1990s. In 1992 a traveling exhibition from the Robert O. Muller collection started in Leiden, The Netherlands, accompanied by the first full scale colour publication on Shin hanga 'The New Wave'. The exhibition toured to Lausanne and Paris and had an enormous influence. Until then only a small exhibition of Shin hanga had been held at the British Museum. While the American market had seen many Shin hanga sold through auctions in New York from the early 1920s very limited quantities of Shin hanga had been dispersed in Europe. This changed from the 1990s when collectors became interested and exhibitions followed each other quickly.

Currently the largest exhibition ever organized is traveling in Europe, based on the holdings of two Dutch collectors and the collection of the Watanabe company. I will show you a selection of the works on display in this exhibition, for which I wrote, with my staff, a catalogue which has appeared in four languages.

企画展「THE 新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦」について

About the special exhibition: 'THE SHIN-HANGA: The Great Endeavor of WATANABE Shōzaburō'

茅ヶ崎市美術館 月本 寿彦
Chigasaki City Museum of Art Toshihiko TSUKIMOTO

茅ヶ崎市美術館では2022年9月10日（土）から11月6日（日）にかけて企画展「THE 新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦」を開催している。この展覧会は、新版画を世に送り出した版元・渡邊庄三郎と渡邊版画店の業績に注目した内容で、株式会社渡邊木版美術画舗の全面的なご協力のもと、同社が所有する貴重な渡邊版新版画を展示し、庄三郎の取り組みを、制作者側の視点を交えながら紹介した。株式会社アートワンとともに企画立案を進め、ひろしま美術館を皮切りに、茅ヶ崎市美術館、高知県立美術館、さらに関西の美術館などを巡回する予定だが、開催を希望する館が多く、現在も巡回館が増えている状況である。今回の秋季大会での発表では、本展覧会の内容とともに、庄三郎の思いが記された昭和10年（1935）刊行の『木版画目録』や準備調査で知り得た、出納帳に書かれた庄三郎の覚え書きや日記についても触れていきたい。

小原祥邨／古邨にとっての新版画

Shin Hanga and Ohara Koson

中外産業株式会社原安三郎コレクション 小池 満紀子
Chugai-Sangyo Co., Ltd. Makiko KOIKE

小原祥邨は、新版画の代表的な画家（絵師）のひとりである。なかでも、渡邊版画店の『木版画目録』にも記された1933年のワルシャワ国際版画展覧会での成功は、新版画においても特筆される出来事であった。しかし、画壇から離れ生涯を伝統的な木版画制作に費やした彼の実像は、いまだ詳らかではない。

最近では、新版画の制作にさきがけて1900年代の初頭から小原古邨の画名で制作された、質量ともに充実した作品が知られるようになった。これらは美術錦絵を標榜した版元・松木平吉

が制作に関わり、米国ボストンの美術商・松本文恭が扱ったものである。ボストンでは文恭の弟・喜八郎も商売に携わっており、帰国後は渡邊庄三郎とともに尚美社を設立している。

新版画とそれ以前の美術錦絵とでもいうべき時代、稀代の版元とともに制作をすすめた小原祥邨／古邨を手がかりに、あらためて新版画について考えてみたいと思う。



小原祥邨「石榴に鸚鵡」（渡邊木版美術画舗所蔵）

第27回 国際浮世絵学会 秋季大会 協賛

国際浮世絵学会 秋季大会開催に際し、次の方々から寄付と協賛を賜りました。
記して深く感謝いたしますとともに、心より御礼申し上げます。

(2022年10月7日現在 五十音順 敬称略)

浅野 秀剛

一心みずい版画(水井 みつ子)

株式会社 浦上蒼穹堂(浦上 満)

株式会社 江戸文物研究所(内村 修一)

大久保 純一

(有)大屋書房(瀬瀬 公夫・瀬瀬 くり)

公文教育研究会

五拾画廊(土屋 雅人)

株式会社 壺中居

(有)角匠アートギャラリー(角田 日出男)

井蛙庵(柳 重之)

中外産業株式会社

公益財団法人 摘水軒記念文化振興財団(寺嶋 哲生)

東間 勝彦

中城 正堯

(株)原書房(原 秀昇・原 敏之)

(株)藤アート(伊藤 雅章)

株式会社 マツミサロン(塚原 雄太)

株式会社 繭山龍泉堂

三田アート画廊株式会社(David Caplan・Ken Caplan)

武藤 元昭

安村 敏信

山下 則子

株式会社 古美術 藪本(藪本 俊一)

ロンドンギャラリー(株)(田島 充)

株式会社渡邊木版美術画舗(渡邊 章一郎)

原書房

浮世絵版画 和本 浮世絵関係書

101-0051
東京都千代田区神田神保町2-3
Tel 03 5212 7801
Fax 03 3230 1158
Mail ukiyoe@harashobo.com

HARA SHOBO
TOKYO JAPAN
www.harashobo.com



小林清親 (KOBAYASHI KIYOCHIKA)
一月中院午前九時富士山之富士 明治14年頃
Mount Fuji seen from Satta Pass at 9 a.m., Mid-January, c.1881

2-3 Kanda Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051 Japan

Tel +81 3 5212 7801 / Fax +81 3 3230 1158

営業時間: 11:00 - 17:00 定休日: 日・月・祝日 (Closed on Sundays, Mondays & Public Holidays)



川瀬巴水 日本風景集 東日本篇 十和田湖子之口 昭和8年(1933)作

—新版画の美— 川瀬巴水木版画展

(初期摺り作品展示即売会)

会期:

令和4年11月17日(木) ~ 23日(水)

会場:

アールグロリユー ギャラリー・オブ・トーキョー
東京都中央区銀座6-10-1
GINZA SIX 5階

詳しくは 11月上旬以降

<http://www.hangasw.com>をご覧ください。

(株)渡邊木版美術画舗

S.WATANABE COLOR PRINT CO.

〒104-0061 東京都中央区銀座8-6-19

TEL 03-3571-4684 / FAX 03-3572-8887

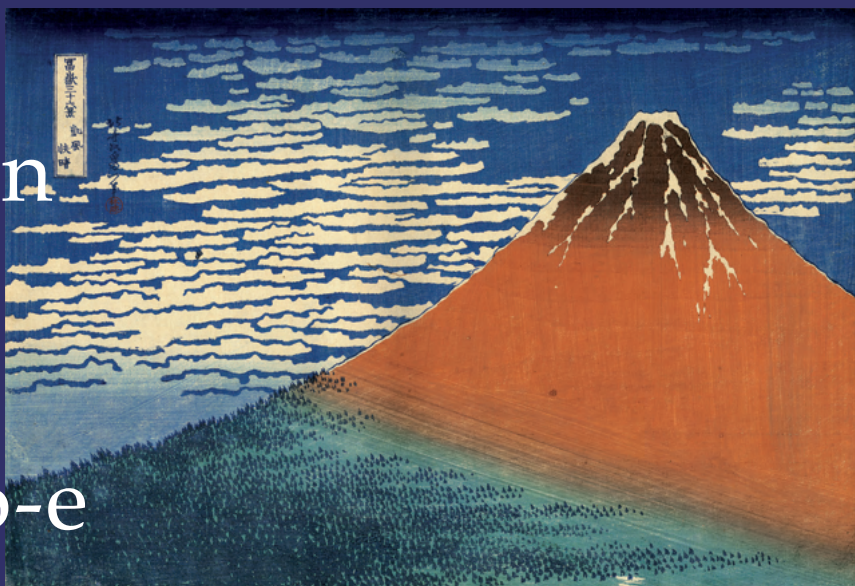
<http://www.hangasw.com>

Old and Rare Books,
specialty store

Wahon
和本

Maps
古地図

Ukiyo-e
浮世絵



江戸時代の和本、古地図、浮世絵版画専門店

大屋書房

OHYA-SHOBO CO.,LTD. Established 1882. 
www.ohya-shobo.com

101-0051
東京都千代田区神田神保町1丁目1番地
1-1 Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

TEL 03-3291-0062 / FAX 03-3295-2334
MAIL ohya@ohya-shobo.com

OPEN 月～土曜 | 10:00～18:00
CLOSE 日曜・祝日 (営業の場合もあります。ご連絡下さい)



株式会社 マツミサロン

MATSUMI SALON CO., LTD

〒160-0022
東京都新宿区新宿1-19-10
サンモール Crest 606
TEL : 03-3357-6174
FAX : 03-3355-0504
E-mail ukiyoe@matsumisalon.co.jp

606 Sunmall Crest 1-19-10
Shinjuku Shinjuku-ku
Tokyo 160-0022 Japan
TEL : 81-3-3357-6174
FAX : 81-3-3355-0504

懐月堂安度「やじろべえをもつ立美人図」
紙本着色六七・三×二五・七cm
十八世紀



内村美術店

株式会社 江戸文物研究所
Edo Culture Laboratory Co., Ltd.

江戸時代の文物・文化所産である浮世絵、絵画その他美術品と書籍の販売を行っております。貸画廊、イベント企画運営、浮世絵や美術作品の展覧会等を通じた作品紹介もしています。

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町2丁目18-4 昭美ビル 1階
電話：03-5640-4446 FAX：03-6661-6641
mail: edo.bunbutsu@gmail.com HP: <https://www.ukiyoe.co.jp/>
Instagram: <https://www.instagram.com/edobunbustu/>

※ ご来店頂く際は、事前のご連絡が必要となります。
上記のお問い合わせ先にご一報ください。

第27回 国際浮世絵学会 秋季大会 実行委員会

浅野 秀剛	加藤 陽介	内藤 正人	Buckland, Rosina
大久保 純一	小林 ふみ子	長井 裕子	Davis, Julie Nelson
浦上 満	石上 阿希	西田 亜未	Kok, Daan
瀬瀬 くり	岡崎 礼奈	日野原 健司	Marks, Andreas
渡邊 章一郎	定村 来人	藤澤 茜	
角田 日出男	洲脇 朝佳	山口 桂	

第27回 国際浮世絵学会 秋季大会

International Ukiyo-e Society 27th Fall Conference

2022年11月26日

編集・発行 国際浮世絵学会

〒104-0031 東京都中央区京橋2-12-2 京橋三貴ビル4F

Tel: 03-6271-0824 Fax: 03-6271-0834

International Ukiyo-e Society

2-12-2-4F Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, JAPAN

Tel: +81-3-6271-0824 Fax: +81-3-6271-0834

<http://www.ukiyo-e.gr.jp/>

印刷・製本

上毛印刷株式会社